

医療的ケアが必要な生徒の 環境整備・支援体制について

医療的ケアが必要な生徒の 支援体制について

- 医療的ケア(吸引・胃ろう部からの注入)の必要な生徒の支援体制について、相談支援員I氏とともに、本人を取り巻く環境を整える。
- 対象生徒には幼稚園児を含む兄弟がおり家庭内は多忙を極めているため、母が疲労で入院する事態に陥ったこともある。

支援会議を開く

- 本人・保護者を含めた関係者(相談支援員・利用施設の担当者・ヘルパー・訪問看護師・薬剤師・教師)で現在の支援体制を確認する。

実践の中で自分が学んだと思うこと

- 学校だけでは把握しきれなかった情報を共有できた。
- 今まで、本人を通じてそれぞれの場面ごとのつながりだった支援者同士に面識ができることで、その後の連絡調整が円滑になった。
- 自分の未来に関する話し合いに、本人が参加することによって、本人の進路への意識付けにもつながった。

今後に向けて

- 本人を含めた関係者同士が集まれる機会が途絶えることのないよう、引継ぎを丁寧に行う。
- 進路先を見据えて、継続可能なグループでの支援体制を確立していく。

地域支援作りへの提案

- 本人も含めて家族が無理のない生活を送れるように、定期的に聞き取りできる機会を持つ。
- 継続した支援の中で、本人のしたいこと、地域との関わりについてグループでのカンファレンスを重ねて可能なことを見つけていく。